

「小学校区教育協議会－はぐくみネット－」事業・学校元気アップ地域本部事業 合同実践報告会

日程：平成28年12月4日（日）14：00～16：30

会場：大阪市立咲くやこの花中学校1階多目的室

テーマ：社会総がかりで子どもを育むために～学校と地域でできること～

内容：基調講演／大阪総合保育大学非常勤講師森下規代子

事例報告／加賀屋小学校区はぐくみネット（住之江区）

東三国中学校区学校元気アップ地域本部（淀川区）

パネルディスカッション

大阪市では、小学校区における「小学校区教育協議会－はぐくみネット－」事業のほか、中学校区においても学校・家庭・地域の組織的な連携のもと、地域社会全体で子どもを育てる「学校元気アップ地域本部事業」を実施しています。今後の両事業の推進に向け、事業関係者及び事業に関心のある方が、事例などを通して両事業の成果と課題を共有し、教育コミュニティづくりと学校教育支援活動についてともに考え交流する機会として開催しました。

最初に基調講演として「社会総がかりで子どもを育むために～学校と地域でできること～」をテーマに大阪総合保育大学非常勤講師・大阪市社会教育委員の森下規代子先生より講演をいただきました。

行事案内状を自転車地域をまわって配布するなどの行動で地域の信頼を得たこと、平成14年はぐくみネット立ち上げの10校に手を挙げられたことなど、小学校に勤続された38年間、管理職として17年間勤めてこられた経験を交えて講演されました。

また、はぐくみネットコーディネーターの声として、「続けてくれる人の確保」「地域に関心を持ってほしい」「外国にルーツを持つ人が増えてきた」などが挙げられていることを課題として報告されました。元気アップについては「地域の力を借りることが大切」「地域とのふれあいは子どもの心を育む」「学校に負担をかけ続けると長続きしない」「コーディネーターの人脈と行動力は頼りになる」という中学校長の声を紹介されました。

地域を学びの教材とする授業から地域を深く知ることができる、として、阿倍野区長池小学校において総合学習の授業で実施された田辺大根作りの様子を報告されました。PTA会長が地域を案内しながら田辺村の歴史を語られ、6年生が校庭に大根の種を蒔いて、3か月後に保護者立ち合いのもと収穫した取組を通じ、育てる大変さ、いっしょに育てる連帯感、収穫した時の誇りが子どもたちの生きる力につながった、とのことでした。小学校が生活・総合の学習を実施していくには地域の力が必要であり、学校が地域に協力を依頼し、地域が学校を支援する「チーム学校」として動くことが大切であると講演をまとめられました。

事例報告では、まず加賀屋小学校区はぐくみネットから「学校・地域・企業・犬・猫もいっしょに見守る子どもたち」と題し、地域清掃・防災訓練等に子ども達・企業・犬や猫達まで楽しく参加できるよう工夫されている事例を報告いただきました。

「見守り隊の活動は活発ながら、子どもの『下校』時の見守りは手薄になりがちであった。一方、大きな災害が起こった時にペットが地域の避難所に受け入れられるか飼い主は不安に思っている。そこで犬の散歩をする人に見守りをしていただくわんわんパトロールを始めた。その後、猫の飼い主にも拡大し、住之江区役所の防犯・防災の取組にも取り入れられた。現在区内で700匹が登録し、見守りだけでなく地域の防災訓練にもペットが参加している。

加賀屋小学校区の活動に賛同・協力する企業・NPOとの会議で、『新しい催しをするのではなく、今ある行事の魅力をあげるのがよい』という意見がでた。そこで、例年文化の日に実施している地域清掃・防災訓

練のバージョンアップを図ることにした。具体的には、子ども達にも楽しんで参加してもらえるように、清江小学校の取組みを参考に、地域清掃を今年は清掃の成果を競うクリーンピックにかえ、防災訓練の後、表彰するようにした。学校・地域・企業・NPOが連携して実施し、今年は600名の参加があった。今後は保護者の参加も呼びかけ1000名の参加をめざしたい」と報告がありました。

東三国中学校区学校元気アップ地域本部からは「地域の温かい目に包まれて」と題し、地域の力を学校に、学校の力（Jrリーダー）を地域に入れ、学校元気アップ地域本部事業が「チーム学校」への架け橋となっている事例を報告いただきました。

「学校長から『お昼休みボランティア』『図書館支援ボランティア』『自主学習支援ボランティア』の3つのボランティアを依頼された。①『お昼休みボランティア』は生徒の昼休みの確保・安全な環境・昼休みのトラブルゼロを目標に毎日10名程度が給食の後片付けや校内巡視を実施。②『図書館支援ボランティア』は生徒の居場所づくり・書籍等の整備を目的に、図書館支援（授業とと並行して・自主学習中）。③『自主学習支援ボランティア』は卒業生・保護者・校区内にある新大阪歯科技工士専門学校と連携して実施。270人だったボランティアが3年で600人を突破した。ボランティア活動を通して、人と人とのつながりを作っていることを実感できている」と報告がありました。

その後、森下先生と事例報告者とパネルディスカッションが行われ、森下先生からは各事例に対する講評と両パネラーへの質問がありました。出席されていた東三国中の校長先生・教頭先生からは「いろんな人から助けてもらった経験から、人を大切にしたいという気持ちが強くなった。地域がほんとうに温かく『子どもたちを見守るぞ』という気持ちが感じられる。おじいちゃん、おばあちゃんから元気を貰える。褒めることの大切さ、褒める気持ち、感謝の気持ちをボランティアへの感謝状に気持ちを込めて書いている」とお話がありました。

小中学校の現場の声や様子、校区コーディネーターの達成感と課題についてなど、参加者の方にとって大変参考になる話が多くあり、あらためて地域と学校の連携の大切さ・必要性を感じる報告会となりました。

【参加された方々の感想】アンケートより抜粋

- ・細かく話してくださって、とても分かりやすかったです。「あいさつのシャワー」「チーム学校」「こどもファースト」など知らない言葉を知りました。
- ・他地域の様子や取り組みを聞けてよかった。
- ・コーディネーターの役割には、まだまだできることがあると思いました。
- ・はじめに大人のやる気、発想。体験と話を聞いて、じゃ、私たちの地域では何ができるか？たくさんの人を巻き込んで何ができるか？を考えたい。若い人材がいなことが悩み。
- ・取り入れていきたい内容がたくさんありました。気づいてないことに気づきました。
- ・地域の人だけでなく、地域の中の企業や施設の人の協力も見直していくことが必要だと気付きました。
- ・地域活動が活発な地域ですが、学校とのつながりにまだまだ不足なところが多いと実感しました。学校にしていだきたいこと、コーディネーターができることを今一度考えたいと思いました。
- ・今日、参加して良かったです。半歩でも前向きに頑張ります。半歩が何百歩にもなるようにヒントをいただきました。